

## リレー随筆

## 気象観測船に乗船して(1)

## 巡視船「おじか」でのウンカ調査の思い出

毎年6月になり梅雨の季節になると、何故か今年のウンカはどうなんだろう、多いのだろうか少ないのだろう、早いのか遅いのかと大変気懸かりになってくる。これは私自身が今なお農業会社に籍を置く身の一種の職業病かもしれない。また一方では、四半世紀前に自ら南方定点観測船でウンカ飛来調査を行った思い出につながっているのかもしれない。昭和43年に始まった海上調査が四半世紀以上にわたって続けられており、編集部より当初の思い出を書いて欲しいと求められたので、昔の記憶をたどりながら筆を執った次第である。しかし26年も前のことであり記憶もかなりあやしくなっているので、間違いがあるかもしれないがご許しをいただきたい。なお調査に関することは「病害虫発生予察特別報告」第23号(昭和43年)、「植物防疫」第22巻第12号(昭和43年)、「今月の農業」第12巻第9号(昭和43年)、等に報告してあるので、参考にしていただきたいと思う。

## 1 海上飛来調査の動機

セジロウンカとトビイロウンカについては昔から非常に多くの試験研究が行われていたが、越冬生態や第一次発生源に関する点は不明であり、長い間「内地越冬説」と「海外飛來說」との間で論争が続けられていたが、昭和20年代後半から全国的規模で国と県が一体となって研究を行い、ついに昭和40年6月にそれまでの研究成果を踏まえて卵休眠による内地越冬説を支持した。ところが昭和41年に久しく大発生をみなかった兩種ウンカが関東以西で大発生し、さらに昭和42年7月15日に南方定点観測船で気象庁職員鶴岡保明氏がウンカの大群を確認することとなり、海外飛來說がにわかにクローズアップされた。このような背景から農林省側も職員を乗船させ自らその事実を確かめる必要が生じ、発生予察事業の新たなページが開かれることとなった。

## 2 名誉ある第1号乗船者となって

南方定点観測船は海上保安庁に所属し、毎年5月から11月まで巡視船「おじか」と「のじま」の二船で約20日交替で北緯29度東経135度の位置で気象観測を行っているもので、船には保安庁職員と気象庁職員が乗っている。他省庁の職員が他の目的で乗船することはそう簡単なものではなかったと思う。この調査を行うと決断された時の植物防疫課長 安尾 俊氏、課長補佐 遠藤武雄氏、係長上垣隆夫氏のご苦勞、ご努力は大変なものであったはずである。幸い海上保安庁や気象庁の承諾が得

られ昭和43年6~7月のウンカ飛来時期に乗船する運びとなった。当初計画では第1回目は農技研 長谷川 仁技官が、第2回目に私が乗船することとなっていたが、長谷川さんが小笠原島調査の折に足をいため乗船できなくなり、急拠私が第1号乗船者となった次第である。

## 3 巡視船での生活

山国(長野県)育ちの私は船に乗ったのは青函連絡船と佐渡ヶ島連絡船ぐらいのもので、大海原に出るということに不安があった。巡視船は私共戦中派にはなじみの駆逐艦に似た船で1,000トン未満の小さい船である。私はお客さん扱いで上甲板にある士官室が与えられ、狭いながら大変に良い部屋で丸窓からは海原が見えた。20日間の航海中出発前の不安は消え、1日4食もある食事をある時は低気圧接近の荒海どきに、またある時は位置修正のための航行中に椅子にかけられない状態での食事を含め完全消化したのは士官食堂では船長と私の2人だけであり、最後の夕食会で皆から驚きとおほめの言葉をいただく結果となった。今にして思えばお客さんであり皆に迷惑をかけるわけにはいかないという気持ちが結果的によかったと思っている。

さて本来のウンカ調査のほうはというと、これは「運を天にまかせる」という諺がぴたりと、定点付近は連日快晴で全くウンカ飛来の気配がなく、時おりトンボやホウジャクが飛んできて私を慰めてくれるだけであった。はるか水平線上に梅雨前線がはっきり見え、なかなか船に近づいてこず、むなししい毎日であった。360度障害物が全くない洋上で梅雨前線をあれ程ははっきりと見ることができたのは別の意味で大きな収穫であった。

ウンカの飛来は観測終了の前々日から始まった。梅雨前線直下に船があり小雨が降り続いたとき、南々西の風によってウンカが大量に船でつかまった。早速植物防疫課に電報を打ち、やれやれよかったというのが正直な気持ちだった。そろそろ返り仕度にかかり始めた時で、持参した稲苗もわずかの時間差で処分してしまい、大臣特許も準備された「生きたままのウンカ」が日本に持ち帰れなかったことはまことに残念であった。それにしてもあのような大海の中、小さな船に何故ウンカが飛び込んで来るのか? いまだにその疑問は解けていない。ふとしたきっかけで始まった洋上調査がもう26年も続いている。これは世界に誇れる事業であろう。これからももっともっと長く続けてほしいと願っている。

(日産化学工業株式会社 三田久男)

人事消息

(9月16日付)

(省際基礎研究に伴う併任)

河野義明氏(厚生省国立予防衛生研究所昆虫医科学部殺虫殺そ剤室長)は蚕糸・昆虫農業技術研究所生体情報部併任に

○研究職 OB ニュース (H4年11月~5年5月就任)

佐久間勉氏(果樹試保護部長)は JICA チームリーダー(ネパール)に

奥 俊夫氏(果樹試盛岡支場虫害研究室長)は(株)ネクサス嘱託に

樋口昭則氏(北農試農村計画部地域計画部研究室長)は帯広畜産大学助教授(畜産学部)に

栃原比呂志氏(九農試地域基盤研究部長)は(社)日本植物防疫協会資料館長に

川北 宏氏(蚕昆研生体情報部主研)は蚕昆研非常勤職員に

山口武夫氏(熱研センター研究第一部長)は九州東海大学教授(農学部)に

宮崎県総合農業試験場では、9月1日より電話はダイヤルイン方式となる。管理課 0985-73-2121(代表)、環境部 -2124、生物工学部 -2125、FAX 0985-73-2127(変更なし)、詳細は要問合せ

京都薬科大学では、8月31日より電話はダイヤルイン方式となる。詳細は要問合せ。代表 075-595-4600

林業薬剤協会では、8月23日(月)より事務所を下記へ移転した。電話、FAX は変更なし

〒101 東京都千代田区岩本町2丁目18番14号  
藤井第1ビル8階

社団法人農林水産技術協会では、8月1日付で組織改正を行い、従来の筑波支所を筑波センターとし、研修宿泊部と情報交流部を設ける改組を行い、本部の情報システム室を部として新設した。

株式会社エス・ディー・エスバイオテックは、5月6日付でダイヤル・イン方式を導入した。各部門番号は次の通り。(03) 3436-3811(総務部)、3813(海外部)、7440(営業管理部)、7441(農薬営業部)、7442(東京営業所)、7443(動薬・防疫薬部)、7446(農薬対策室)、7447(開発部)、0989(ファクシミリ)

福井県植物防疫協会は、5月1日付で次のとおり事務所を設置した。

所在地 〒910 福井市北四ツ居3-1-19  
(福井県農業共済組合連合会5F)

電話 代表 0776-53-2700  
直通 0776-52-2264  
FAX 0776-52-2264

グリーンネット株式会社は、5月6日付にて下記に事務所を移転した。

〈新住所〉  
〒101 東京都千代田区神田錦町3丁目24番4号  
(住友商事神田ビル5F)

〈電話〉 03(3233)8711(代表)  
8712, 8713

〈FAX〉 03(3233)8714

デュポン・ジャパン・リミテッド東京本社は、5月1日付にて下記に移転した。

〈新住所〉  
〒153 東京都目黒区下目黒1丁目8番1号  
アルコ・タワー

〈電話〉(03) 5434-6113(農業用製品事業)、6114(業務部)、6116(農薬事業部)、6117(普及・安全推進室/特品担当)、6115(関東甲信越担当)、6120(研究開発・新規事業部)、6118(開発課)、6119(登録管理室)、6187(ファクシミリ)

長瀬産業株式会社では、組紮変更に伴い部所の呼称を下記のとおりに変更した。

〈新名称〉 化学品第2部農業・生活環境部門  
(旧名称 化学品第2部農薬部)

カリ・デュファア株式会社農薬部は、4月1日付にて独立し新会社ソルベイ・バイオサイエンス株式会社を設立した。

〈住所〉 〒104 中央区銀座6丁目13番16号

〈電話〉 03-5565-4152(直)

〈FAX〉 03-5565-4199

東京有機化学工業株式会社残留製剤研究部門は、7月19日付にて下記に事務所を移転した。

〈新住所〉 〒340-02  
埼玉県北葛飾郡鷲宮町大字八甫2763

〈電話〉 0480-57-1330(ダイヤルイン)

〈FAX〉 0480-57-1383

奈良県植物防疫協会では、8月2日付で事務所を下記に移転した。

〈住所〉 〒630  
奈良市法蓮町757 県法蓮庁舎園芸農産課内  
(奈良法蓮庁舎1階 園芸農産課内)

〈電話〉 0742-22-1101(従来どおり)

福島県病害虫防除所の FAX. NO. が下記のとおり変更になった。(旧) 0249-38-4242

(新) 0249-23-2012

日本バイエルアグロケム株式会社では、8月1日付で本社事務所を下記へ移転し、電話もダイヤルイン方式とした。(業務開始日 8月2日)、

(新住所) 〒108 東京都港区高輪4丁目10番8号  
京急第7ビル

電話 03-3280-(抜粋)

管理本部・人事部・人事課(9883)、経理部・経理課(9886)、総務部・総務課(9894)、経営企画室・開発企画部(9393)、広報部(9896)、営業本部・農薬営業部・販売管理課(9386)、海外・特品営業部・海外営業課(9382)、業務部・営業企画課(9387)、開発本部・技術部・殺虫剤グループ(9378)、除草剤グループ(9379)、殺菌剤グループ(9381)、開発調整(9378)、登録センター部・登録I課(9376)、登録II課(9377)、生産本部・生産管理部・資材課(9394)、製造課(9394)